

学校法人東放学園
東放学園専門学校 殿

2022年度 学校関係者評価報告書

東放学園専門学校
学校関係者評価委員会

1. 学校関係者評価委員

【学校運営に関する有識者】

岸田 真 桜美林大学 芸術文化学群 教授（委員長）

【就職先企業及び業界関係者】

小川 尚人 一般社団法人 日本ポストプロダクション協会（映像・音響系）

深井 一彦 株式会社 パシフィックアートセンター（美術・照明系）

【高等学校教職員】

田口 裕基 日本大学鶴ヶ丘高等学校 教諭

【卒業生保護者】

伊藤 圭一 放送技術科2年生保護者

【卒業生】

本島 義和 2001年放送技術科卒／株式会社 ラフリエイト

2. 事務局・東放学園専門学校

加藤 諭 校長

堀内 和人 副校長

笹原 恭 教務教育部 部長

木戸 司 学務管理部 部長

浜野 龍也 学務管理部 業務主任

3. 学校関係者評価委員会の開催情報

2022年12月3日（土） 東放学園専門学校にて会議実施

4. 学校関係者評価結果

※別紙のとおり

※別紙

4. 学校関係者評価結果

【評定内容】

- 4 適切に対応している。課題の発見に積極的で、今後更に向上させるための意欲がある。
- 3 ほぼ適切に対応しているが課題があり、改善方策への一層の取組みが期待される。
- 2 対応が十分でなく、やや不適切で課題が多い。課題の抽出と改善方策へ取組む必要がある。
- 1 全く対応しておらず不適切である。学校の方針から見直す必要がある。

I. 重点目標について

重点目標 1 カリキュラムの検討(2021 年度～2023 年度)

コ メ ン ト	評定
<p>・教育機関において最も重要なのは、教育内容、すなわちカリキュラムである。柔軟なカリキュラム編成が可能な専門学校では、特に時代のニーズに応じたカリキュラム作成が求められる。SNS 時代に合った科目設置があっても良いように思う。シラバスを読むと、いささか旧態依然としている印象を受ける。Youtuber や TikToker を講師に招くことも考えてもよいのではなかろうか。</p> <p>・前年度の評価内容が反映されているので引き続き、検討を継続していただきたい。</p> <p>・学生ガイドを見ると各学科とも基礎だけでなく、実習にも重点を置いたカリキュラムになっていると感じる。また、一般選択科目の中には資格取得科目もあり充実しているように思える。時代にマッチしたハイブリッド教育の推進をお願いする。</p> <p>・コロナ禍が続く中、就職に向かう姿勢も大きく変化しているように感じる。「育成人材像の明確」を掲げる事はとても有意義な事だが、何を理想とするのか、企業が求める人材像を、学校関係者で様々な企業からヒアリングを行い進めて頂きたい。オンラインを使用することも、今までにない広角な指導方法となり、大いに期待したい。</p> <p>・2021 年度の重点目標に対する達成状況では「学科主任を中心とするプロジェクトを発足し、学科ごとの育成人材像や修学目標と学年・学期ごとの学習到達目標を明確にし、次年度の学生ガイド(シラバス)に明記するよう改善を図る。」とあった。2022 年の学生ガイドには人材像やカリキュラム内容が分かりやすく掲載されており課題に対しての取り組みがしっかりと行われていることを確認した。この先の課題も明確になっていることから一つずつ解決されるものと期待している。</p> <p>・オンライン授業を経て慣れてきた世代が入学してくるようになるので、オンラインでの授業選択は今後ベーシックなものとし、リアルとオンライン双方の利点を活かしたカリキュラムの改善を図ってほしい。</p>	<h1>4</h1>

コ メ ン ト	評 定
<ul style="list-style-type: none"> ・少子化とコロナ禍で、どこの学校も生徒募集に苦労している。大学全入時代に、専門学校は大学に無い、独自の実践教育に特化すべきだろう。ターゲットは高校生なのだから、彼等に良いと思わせる方法を取るべきである。オンライン体験入学もいいが、現代の高校生は Twitter や Instagram に時間を費やしているのだから、そこへの戦略を考えるべきではなかろうか。 ・一人でも多くの志願者を増やすためにできることは何でも試してみて、方法を模索することは必ずこれから数年後に迎える本格的な少子化時代を乗り切るためのヒントも見つかるはずである。 ・ホームページを活用したオープンキャンパスや体験入学の参加募集を通して入学募集活動の強化を図っている。 ・目標1に繋がることだが、入学対象者が、何を目標にするのか、単なる憧れや、興味から業界を目指す方が、ほとんどだと思う。ただ、学校で学ぶ内容、得る情報でそのフォーカスが少しずつ絞られてくるので、その人物の個性を生かしながら「育成人材像」に近づけて頂きたい。 ・入学対象者への調査分析が行われており募集力強化への取り組み姿勢がしっかりと感じられる。コロナ禍で対面での体験入学などイベントの開催が難しくなった半面、設備を整備しオンラインの体験入学などを実施するなど新しい募集形態にも取り組んでいることは評価できる。 ・募集イベントの内容見直しが行われている点が評価できる。入学対象者の調査と分析もスピード感を持って頂き、課題やニーズを明確にして反映して頂きたい。地方の身としてはオンラインでの面談や説明会が非常にありがたい現実がある。引き続き促進して頂きたい。 	<h1 style="font-size: 48px; margin: 0;">3</h1>

コ メ ン ト	評 定
<p>・現代は終身雇用、年功序列の時代ではない。TVCMでも転職情報が盛んに流されている。またネット上にも膨大な就職情報が流れているだろう。反面、ピーター・パン症候群のように大人になることを拒み、メンタルに問題を抱えた者が少なくないのが、現代学生の特徴である。しかし就職率は専門学校の評価に直結し、保護者の関心も高い。キャリアサポートセンターの一層の努力が求められるだろう。</p> <p>・この目標の達成は必ず重点目標2の達成にリンクするということを意識して、努力する必要がある。</p> <p>・2020年度と比較して進路決定率は上昇して目標を達成している。引き続き対策の取り組みを継続してほしい。</p> <p>・現在の各企業の状況を把握する事は、大切。半導体不足や物価の高騰も映像・音響業界にも影響が出始めている。人材不足は各社感じているが、その背景には、離職率も高くなっている事実もあり、若者の「働く事」に対する考え方に危惧を感じている。一人前になる為に必要な忍耐というか、仕事をする心構えも併せて指導いただきたい。</p> <p>・2020年は、コロナ禍で社会全体が手探り状態であったため企業側も採用を控えるなどしていたことがありこれまでにないくらい進路決定率や就職率が目標に届かないという状況であったが、その経験を活かし2021年度に進路決定率は目標を超えることが出来ている。エンターテイメント業界は、経済的なダメージを受けやすく戻りにくいといった面があるが合同企業説明会の実施やオンライン面接の対策強化や人材エージェントの活用をした「就職講座」などの実施で目標へ向けての努力が伺える。</p> <p>・回復が見られ大変評価できる。今後も情勢変化によって企業の採用状況も都度変化と思われるので、課題にあるように引き続きの支援強化を願う。</p>	<h1>3</h1>

II. 評価項目別取組状況について

基準1 教育理念・目的・育成人材像

コ メ ン ト	評定
<ul style="list-style-type: none"> ・確固たる教育理念があり、人材育成に関しても目的が明確である。ホームページで公表できることも、その正しさを立証している。変化の激しいエンターテインメント業界に対応するのは容易なことではないが、卒業生の活躍には目を見張るものがある。 ・全体的にこれまで進めてきたことの継続の色合いが強いと感じた。この項目はアドミッションポリシーにも繋がる部分であり毎年、変更するようでは混乱を招くだけであり、いかに浸透させていくかということについて対応策を検討している点が評価できる。 ・基本理念、使命、行動指針、教育方針が明確であり、ホームページに公表している事は評価できる。これからも TOHO メソッドに則り優れた人材育成をしてほしい。 ・御校の基本理念、使命、行動指針に基づいた運営に問題は感じない。ただし、総括と課題にも記されているが、変化が著しい放送業界において、カリキュラム内容の検討は良い取り組みと思う。デジタル世代の若者にとって、魅力的なカリキュラム編成を検討いただきたい。 ・基本理念にある「己と和と成長」に基づき「使命」「行動指針」「教育方針」へと繋がりそのいずれも十分評価できる。理念などは、年中目にするものではないが目指す方向性を指し示すものである。ホームページや学生ガイドにも掲載されており浸透させるべく行動していることは伺える。学校関係の皆様方の努力により一層浸透できるようさらなる活動を期待する。 ・理念の浸透度を高める課題に対して、学生・保護者向け Web サイトでの公表の検討が昨年度から継続(変わらない点)に進捗があったのか少し気になる。行動指針にもある「先見性を持ち、効果的に創造する」を意識していただき、引き続き社会・業界・学生にマッチした形への見直しなど、柔軟な対応に期待する。 	<h1>4</h1>

コ メ ン ト	評 定
<ul style="list-style-type: none"> ・五カ年計画も終盤に向かっている。コロナ禍以前に立てた計画は軌道修正を求められたはずだが、概して運営は健全であると思われる。理事会・評議員会を実施していることも評価できる ・この中で気になったのは採用方法についてである。高校では非常勤講師への応募が近年減っており、人材の確保に苦勞している。採用方法についてこれまで通りでもよいのか、検討する必要はないか。 ・事業報告書をホームページに掲載し、事業概要、財務状況等を公表している事は評価できる。今後も透明性を持った学校運営にあたってほしい。 ・五カ年計画を着実に進められていると感じる。コロナ禍が日常化されてきた現在、指導される皆さんのメンタルの維持向上、情報の共有などを継続頂き、新しいスタイルのカリキュラムも検討いただきたい。 ・2019年度から五カ年事業計画に基づいて、顧客のニーズに柔軟に答えるよう教職員自らが変化に対応できるよう様々な取り組みを実施されていると感じる。計画策定時と現在とでは、コロナ禍による社会的環境の変化も大きいですが、柔軟に変化する状況に対応してきているのではないかと思う。クラウド利用による情報セキュリティの強化は必須であり、早期の対応が望まれる。 ・引き続き五カ年事業計画を基に適切な取り組みが成されていると思う。行動制限が緩和され WITH コロナへと本格的になった今年度においても柔軟に対応出来ていることを期待する。またそれをしっかりと継続してもらいたい。セキュリティ対策について「全体防御型へ改める」とあり、見直しや対策強化へ姿勢が見られることは評価できる。 	<h1 style="font-size: 48px; margin: 0;">3</h1>

コ メ ン ト	評 定
<p>・教育組織において最重要なのは教育活動である。業界のニーズに柔軟に対応し、学科ごとの目標レベルを作るなど工夫がみられる。シラバスに評価方法・修了認定基準を明記している点も良い。</p> <p>・資格取得試験の合格率を上げることを課題に挙げており、改善策として授業内容の見直しと書かれている。もちろん、それは欠かせない取り組みではあるが、ICTを活用した自学自習のシステムも適宜活用するなど、教職員の業務量をコントロールすることも重要である。</p> <p>・実務経験のある教員による授業が充実しているように見える。また、実習授業時間も多く有意義だと思う。資格取得講座、就職講座もあり充実したカリキュラムを構成していることは評価できる。</p> <p>・昨年も指摘したが、「目標の設定」の特記内にある BVE-2000(編集機)のオペレーションのカリキュラムが残っているのは残念に感じる。編集の概念を学ぶのであれば問題ないが、専門技術としては必要ない。むしろノンリニア機器のオペレーションを指導すべきである。資格取得に対する姿勢は評価したい。</p> <p>・教育課程は、毎年、見直し改定を行っており各授業科目の目的や概要、計画、修了に係る授業時間数、成績評価方法などは、学生ガイド(シラバス)に明記されている。在校生を対象とした授業評価アンケートや卒業生を対象とした学校アンケートを定期的実施している。また、各企業などと連携しながら卒業生や講師などを通じて、恒常的に関連業界の意見聴取を行い改善に活用している点は評価できる。</p> <p>・社会の変化や業界のニーズに対して教育課程の見直し・改善が引き続き徹底されていることが窺える。少し脱線するかもしれないが、学生ガイド P43「16.身につけて欲しいスキル」にある内容は全般的に古く感じる。現代に沿った内容に改定して良いと個人的には感じる。</p>	<p>3</p>

コメント	評定
<p>・報告書には「資格・免許の取得」という項目があるが、どれぐらいの生徒が、どれだけ取得しているのか知りたい。またそれらの資格が、実社会において、どれだけ有益なものなのかも知りたい。TOHO会の存在は侮りがたいものがあると思う。</p> <p>・これまで多くの卒業生の各界における活躍ぶりを把握するために、卒業生の報告をただ待つよりも、アクティブにこちらから仕掛けて収集することができれば学校の広告塔にもなり、志願者数増にも繋がるはずである。</p> <p>・就職率および資格・免許取得率を把握して目標設定している事は評価できる。卒業生の社会的評価を把握する事は難しいと思うが、今後も努力してほしい。</p> <p>・進路決定率、就職率を拝見すると、コロナの影響は否めないが、2020年度から2021年度は改善傾向がみられる。御校の取り組みの結果だと評価したい。</p> <p>・学修成果を押し量る目標の一つとして「資格・免許の取得率」を掲げている。実務経験が必要とされる放送・エンターテインメント業界において専門学校で2年間で取得できる資格や免許は、それほど多くは無いがいずれの資格もその上の上位資格があるため、基準となる資格や免許を取得しておくのは良いと思う。学生が資格や免許取得に興味を持つような授業内容も検討いただければ今後益々取得率が上がるのではないかと期待する。</p> <p>・就職率について未達成となっているが、昨年度からは上昇しており大いに評価出来る。更なる上昇を期待したい。DO率も目標値を達成していて、こちらも評価出来る。学内資格に EDIUSも追加したらどうかと個人的に思う。全てではないが、地方局や地域のケーブルテレビ等での導入率は高く、学生の内に基礎知識を得ておく事は無駄ではないと思う。もちろん学内設備上の都合もあるので、現場の動向をリサーチして中長期視点で検討してみてはどうか。</p>	<p>4</p>

コ メ ン ト	評定
<p>・日常生活における経済支援体制や健康管理体制、またメンタル面への対応、そして就職活動のサポートなど、手厚い支援をされているように見受けられる。パーソナルデータシステムをアドバイザー、就職・進路担当などと連携体制を整えている点も評価される。</p> <p>・中途退学者数を減らすための努力や工夫はさらに洗練していく必要がある。専門学校はそれを学びたくて入学しているはずなので、そのような学校を退学するということは何が原因なのか、それを早く掴めれば数は必ず減らせるはずである。保護者会を2021年度は中止したということだが、やり方を工夫して保護者会は継続するべきだと考える。</p> <p>・求人情報検索システム、キャリアサポートセンター等での就職支援が充実しているように感じる。また、学生の健康、メンタルに対する相談サポート体制もしっかりしている事は評価できる。</p> <p>・昨年から導入された「hyper-QU」など、良い取り組みをされていると思う。コロナ禍で保護者との連携は、苦労があると思うが、学生に対する支援は保険衛生面を含め、しっかりと取り組んでいる。</p> <p>・学生の就職等進路に関する組織体制も学科ごとに就職・進路担当者を配置しキャリアサポートセンターと連携して支援体制が確立できている。学生からの様々な相談ごとに対しては、専任カウンセラーによるカウンセリングが行われている。また、留学生に対するケアも担当者を配置して対応している。独自の奨学金制度も用意しているが、採用者は若干名であるため経済的理由を持つすべての学生に対応するのは難しい。また、留学生の奨学金が少なく選択肢を狭くしている点は今後の課題である。</p> <p>・引き続き連携と共有が徹底された体制であり継続していただきたい。次年度以降は例年同様に保護者会を行う予定とあるが、是非ハイブリットでの実施も検討してほしいと思う。新型コロナの影響はまだ継続しており、それ以外の情勢要因も含め経済的理由で不安を抱えている学生(家庭)は増えているのではないかと思う。抱え込んでいる学生を取りこぼさないよう、より一層のサポート体制を徹底してほしい。また私自身、卒業後に親しい教職員の方に相談にのってもらい、その後の転職に繋がるきっかけを得ることが出来た経験がある。引き続き、気軽に相談が出来る環境づくり・関係性を担保してほしい。</p>	<p style="font-size: 48px; font-weight: bold;">4</p>

コメント	評定
<p>・施設・設備に関しては、限られた予算内で充分対応できていると感じる。コロナはやがて終息するだろうが、それ以外の緊急事態にも対応するであろう災害対策委員会まで設置していることも良い。</p> <p>・防災・安全管理について気になることが1点あった。それは防犯についての記述がなかったことである。校内に暴漢や強盗がはいるなど、近年の状況を考えると今後は防犯への対策についても検討する必要がある。全校的に行う防災訓練を実施するのも良いかもしれない。</p> <p>・テレビ、ラジオ、照明専用等のスタジオが設備されていて教育環境として充実している事が伺われる。またカメラ、編集用機材類も多数揃っている事は評価できる。</p> <p>・業種によって対応が変わると思うが、映像・音響に携わる放送、映画などの業種では、機材更新が悩みの種であると思う。追い打ちをかけるように、ソフトウェアもサブスクリプション化が進み、費用に対する重圧は増すばかりである。加えてインターンシップも中々実行できない現状もあるが、まだ少ないがメタバースの取り組みを行っている企業もあり、連携を強化して取り組んでいただきたい。</p> <p>・これまで行ってきた感染対策の継続は、引き続き行っている。今後、感染状況が一段落した後に施設・設備などインフラの更新が必要になってくるが、社会情勢の変化により物価の高騰や半導体生産の遅れなどもあり放送関連機器や設備への投資負担が著しく大きくなることが予想される。学生の確保、学校の運営両面のバランスを取りながら教育環境の改善を早期に計画しておく必要があると思う。</p> <p>・インターンシップに関して、関連業界への働き掛けは現状どのような感じなのか。内定した学生に対しては「企業研修制度」が整備されているようだが、例えば1年～2年次の春休み期間に実施できるインターンシップなど、地方にも目を向けながら実施出来る体制はできそうか。以前所属していた会社へ某専門学校からインターンシップの受け入れ依頼があり、「こんな地方のプロダクションにも声がかかるのか」と驚いたが、初めて受け入れた学生が新卒での就職を希望してくれ、そのまま採用となった経緯がある。</p>	<p>3</p>

コ メ ン ト	評 定
<ul style="list-style-type: none"> ・体験入学、相談会などを実施し、募集に努力する姿勢は認められる。少子化という現実に対応するのは容易なことではないが、海外にまで募集活動を行っている点は先見性があったといえよう。エンターテインメント業界は、教育業界と距離があるように思われるが、貴校は発足の時点から、時代に先駆けており、その姿勢は継続してほしい。 ・大学入試ではかつてのAO入試は総合型選抜となり、9月1日以降の出願となったが、専門学校では今でもAO入試という名称をつかい、出願期間も9月1日より前に設定しているところが多いが、統一してもらった方が、高校現場の進路指導はしやすい。生徒もあまりにも早く進路が決定してしまうと学習へのモチベーションが下がってしまう。 ・多数のオープンキャンパス一覧をホームページに掲載し、学生募集に対して力を入れている事が感じられる。また、入学手続き等をホームページを利用して情報を提供している事は評価できる。 ・コロナ禍は今後も、強弱を繰り返して行く事になると思われる。「教育環境」でもコメントしたが、御校の見学もメタバースなどを検討すると良いかと思うが、入学希望する学生が増えるかどうかは確信が持てない。現状の取り組みを維持する事が、最良なのかもしれない。 ・ホームページや紙媒体での入学案内などは、わかりやすくできていると感じる。コロナ禍とあって体験入学やオープンキャンパスなどが対面で実施できずオンライン形式に移行したものもあるが、今後は対面とオンラインとのハイブリッドで幅広く効果的な募集活動になることを期待する。放送やエンターテインメント業界の仕組みや卒業後の進路については、なかなか高等学校の教員や保護者への理解が進んでいないというのは課題ではあるが、引き続き努力いただき放送・エンターテインメント業界を支える人材の確保に努めていただきたい。 ・引き続きSNSも有効活用し、「将来をイメージできる情報の提供」を進めて応募数の確保に繋げてほしい。入学選考の具体的な取り組みにて、「入学希望者の学修履歴や経験が発揮できるように複数の方法を設定し、公平な選考を実施している」と追記されている。選択肢を広げる取り組みは大いに評価できる。 	<p style="font-size: 2em; margin: 0;">3</p>

コ メ ン ト	評 定
<ul style="list-style-type: none"> ・助成金を期待できない専門学校は、しっかりとした財務を維持していることが肝要である。財務分析は法人本部で適切に行われていると思われ、借入金・長期未払い金などの負債がないことが、そのことを立証している。 ・財務状況が安定していることは学校運営にとって明るい材料である。今後も継続していただきたい。 ・財務情報をホームページに掲載し情報公開をしている事は評価できる。財務状況はバランスがとれていて監査もしっかり実施されている事が感じられる。 ・問題を感じることはないが、学生の確保率に対し、今後の機材更新などご苦労や悩みが尽きないと思う。古き資産の除却など進めて頂き、スリム化を図る必要もある。 ・学生の確保が財政基盤の基本となるが、関係者の努力によって一定数の定員を確保しながらも施設や設備の改善など支出も適切であり収支のバランスは安定しているようである。今後も継続していくことを望む。社会情勢の変化により物価の高騰など、予想外の支出などもあると思われる。最低賃金の上昇による学校関係者の賃上げなども起こり得る課題かと思う。今後も様々な社会情勢の変化に対応いただき健全な財務体制であることを願う。 ・収支のバランスは取れており、財務基盤は安定している。HP への公開も問題なく、透明性も担保されている。 	<h1 style="font-size: 48px; margin: 0;">4</h1>

コ メ ン ト	評 定
<ul style="list-style-type: none"> ・SNSの発展に、法の対応が適応できていない時代にあつて、特に個人情報保護に関するセキュリティ基本方針の規定を定めるなど、努力が認められる。また学校概要、教育内容情報などをHPで公開している点も評価できる。 ・個人情報の扱いについては毎年の棚卸を課題としてあげているが、手間はかかるがこれをやることに勝る方法はないと思う。 ・オフィシャルブログやSNSをホームページで紹介しているが、個人情報保護、知的財産権等の規則についてソーシャルメディアポリシーで規定している。 ・法令の遵守は、しっかりと対応されているが、学生に留学生などもある事から、ハラスメントに対する対応には注意を頂きたい。同時に指導する職員の方々のメンタルヘルス、ハラスメントも同様である。 ・多くの学生を有していることから個人情報の保護については、日頃からしっかりと取り組んでおり評価できる。今後クラウドの利用なども行っていくと思われるので、高度なレベルでの情報セキュリティの構築を望む。また、その他の関係法令についても評価と見直しを担う部署あるいは委員会を明確にし改善に取り組んでいる活動も評価できる。SNSによる様々な情報の拡散が起こり得るため学生のみならず学校関係者のコンプライアンス順守の姿勢を強く求める。特にハラスメント行為は絶対に起こしてはならない。 ・自己評価及び学校関係者による評価の体制も整備され、評価結果も公開されている。引き続き、個人情報の管理やハラスメント防止の徹底を継続していただきたい。 	<h1 style="font-size: 4em; margin: 0;">4</h1>

コ メ ン ト	評定
<p>・ボランティアに力をいれていることが伝わってくる。SDGs に対する意識づけも在学中に植え付けてほしいところである。地域のみならず、国際交流は今後、必然になっていくであろう。中国、韓国以外の国への開拓が望まれるところである。</p> <p>・コロナ禍の影響を最も受けているのが社会貢献・地域貢献である。対面で実施してきた各種活動の中断を余儀なくされてきたかと察するが、今後は再開に向けての検討が急務である。対面や外に出るの活動に関して後ろ向きになる雰囲気を打破していく施策を立てていく必要がある。</p> <p>・コロナ禍で、社会貢献、地域貢献等の活動が困難だったと思われる。活動が実施できるようになった時はホームページ等で模様を公開することも良いと思う。</p> <p>・今まで行っている活動を継続して頂ければ問題はない。むしろ立派な貢献をされていると思う。</p> <p>・ボランティア活動を授業化しており地域で行われている活動を校内掲示にて告知し、学生に奨励・支援する取り組みを行っている点は評価に値する。これまで行ってきた資源のリサイクル活動も継続的に行われており良い取り組みだと評価する。今後は、社会的な課題でもある SDGs への取り組みに目を向け、取り組みどころが少ないエンターテイメント業界がどのような分野で貢献できるか学生と共に考えながら取り組んでいただきたいと思います。</p> <p>・今年度も新型コロナの影響で十分に活動が出来なかったとのことで残念ではある。情勢に合わせて少しずつ活動を復活していただきたいのと同時に、活動出来なかったことで見えた気づき等あれば校舎間で垣根なく情報交換をし、新たな社会貢献・地域貢献、ボランティア活動に繋げていってほしいと願う。もちろん地域からも学生からも意見や要望を募るなどしても良いと思う。</p>	<p>3</p>

所感

・長かったコロナ禍から抜け出すことのできたかのような2022年であった。2年間に及ぶ感染症の拡がりは多方面にわたり、様々な産業に影響を与えたが、教育業界も例外ではない。生徒も教職員も何度も困難にぶちあたったことだろう。だが就職率、DOともに一定の水準を保っているのは、御校の伝統と共に、各関係者の努力の成果だろう。「学生ガイド」に目を通したが、学科名、科目名は長い間、変わっていない。それを否定するものではないが、少し古くさいものを感じる。現代の高校生に響くようなものに変更することも、考えてみたらいかがだろうか。

・全体的に前年度の課題についてはクリアしようと努力されていることがわかる報告書だった。今後はwithコロナ時代に他より先んじて各種行事、特に海外系の行事を再開するかを検討してはいかがだろうか。コロナ前から日本人の留学生数が減っていることは社会問題になっていたが、コロナ以降、個人では海外に行き辛くても、学校のプログラムとなると敷居が下がり、参加しやすくなると思う。円安もあり渡航費も上がっており、家庭の負担も増えている中なので克服すべき課題は多いが、一考の価値はあるかと思う。

・教育理念が明確になっていることから、行動指針、教育方針にしっかりしたポリシーがある事が感じられる。メディアとエンターテインメントに携わる人材育成に向けて、努力している事が伺われた。

・コロナ禍が日常化する現在、放送・エンタメ業界の在り方を、都度変えてきている。働き方改革から、徹夜が当たり前前の業界から脱却し始め、メンタルヘルスの対応も各企業が取り組んでいる。リモートを使用した作業も増え、今後はクラウド使用の作業が当たり前になると思う。映像、音響業界はテープメディア(ベースバンド)からファイルベースに急速な移行を始めており、JPPAに所属する私が意見をすると問題があるかもしれないが、企業に属して働くスタイルから、個人(フリーランス)として働く方も増えると思う。授業としてインボイス制度や、企業との連携(契約)ついてのカリキュラムも検討されてはいかがだろうか。他校が取り組んでいない事に着手するのも今後、学生を増やす魅力のあるものではと感じる。

・コロナ禍となって3年目を迎えようとしている現在でも感染状況は、収まるどころかまたも広がり始めている状況だが、社会的にはwithコロナに向かっているようにも感じる。日常生活において様々なところで感染対策は続いているものの、少しずつ行動制限もなくなってきた。放送・エンターテインメントに関わる業界としては、ようやく制限のないイベントが開催できるようになってきた。コロナ禍で新卒採用を控えていた企業も採用活動を復活させ、これまでに補充できなかった人材確保に動いているが、コロナ禍で受けた打撃により放送・エンターテインメント業界が社会的な環境に大きく影響を受ける業界だということが露呈したことも事実であり業界から転職していった優秀な人材がいたことも隠せない。このような環境の中でも新しい希望に満ちた学生を募り、教育し即戦力として放送・エンターテインメント業界を支える専門学校が存在価値は大きいと考えている。エンターテインメント業界は、仮想空間へと広がりを見せる予感がする。是非、早期に仮想空間に対応した人材の育成について検討いただければと考える。有望な卒業生が多数活躍している実績を今後も期待している。

・学生の皆さんは「これまで(過去)」以上に「これから(リアルタイム～未来)」を常に見ている。業界も更なる発展と厳しい社会情勢の中で生き残る為に動向を注視し、ニーズに合わせた体制構築やトライをしている。その間で貴校の役割はとても重要である。一歩先をいく先見性を持って今後も健全な学校運営をお願いしたい。

以上

